

第3期みよし市まち・ひと・しごと創生  
人口ビジョン



令和8(2026)年3月  
みよし市

# 目 次

1. 人口ビジョンの策定に当たって.....	3
2. 人口の現状分析.....	3
(1) 人口の推移.....	3
(2) 将来人口の推計.....	10
3. 人口の将来展望.....	11

(西暦・和暦対応表)

西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦
1955年	昭和30年	2000年	平成12年	2025年	令和7年
1960年	昭和35年	2005年	平成17年	2030年	令和12年
1965年	昭和40年	2010年	平成22年	2035年	令和17年
1970年	昭和45年	2015年	平成27年	2038年	令和20年
1975年	昭和50年	2016年	平成28年	2040年	令和22年
1980年	昭和55年	2017年	平成29年	2045年	令和27年
1985年	昭和60年	2018年	平成30年	2050年	令和32年
1990年	平成2年	2019年	平成31年(～4/30) 令和元年(5/1～)	2055年	令和37年
1995年	平成7年	2020年	令和2年	2060年	令和42年

## 1. 人口ビジョンの策定に当たって

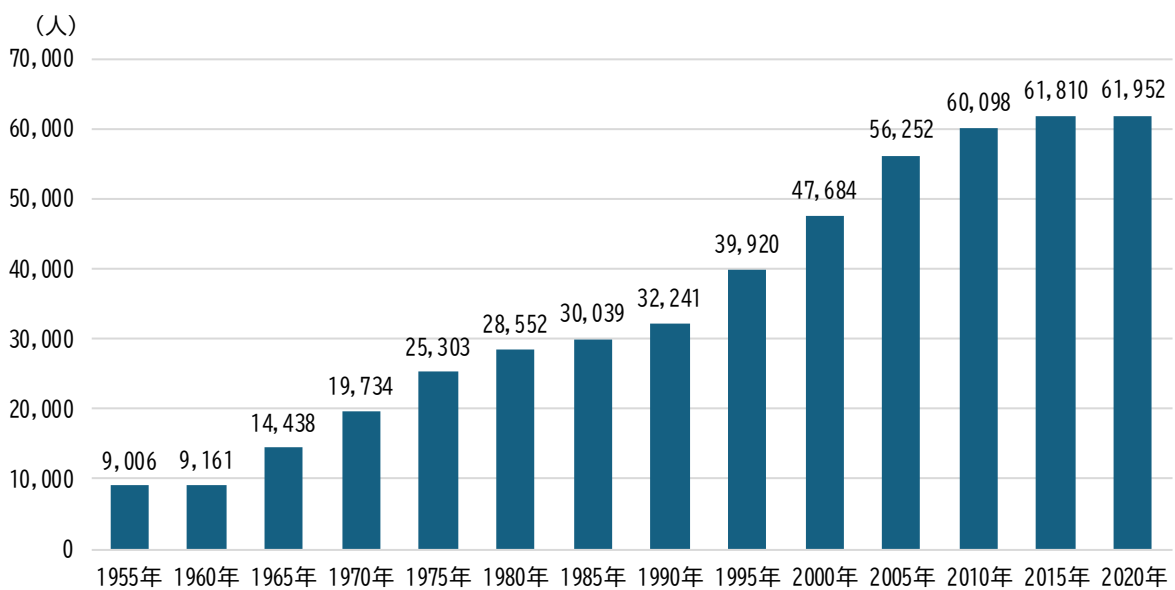
第3期みよし市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンは、人口の将来展望及び第3期まち・ひと・しごと創生に向けた効果的な施策を策定するための目指すべき方向性を示したものです。

## 2. 人口の現状分析

### (1) 人口の推移

本市の人口の推移をみると、昭和30(1955)年以降、一貫して増加し続けており、令和2(2020)年では61,952人となっています。

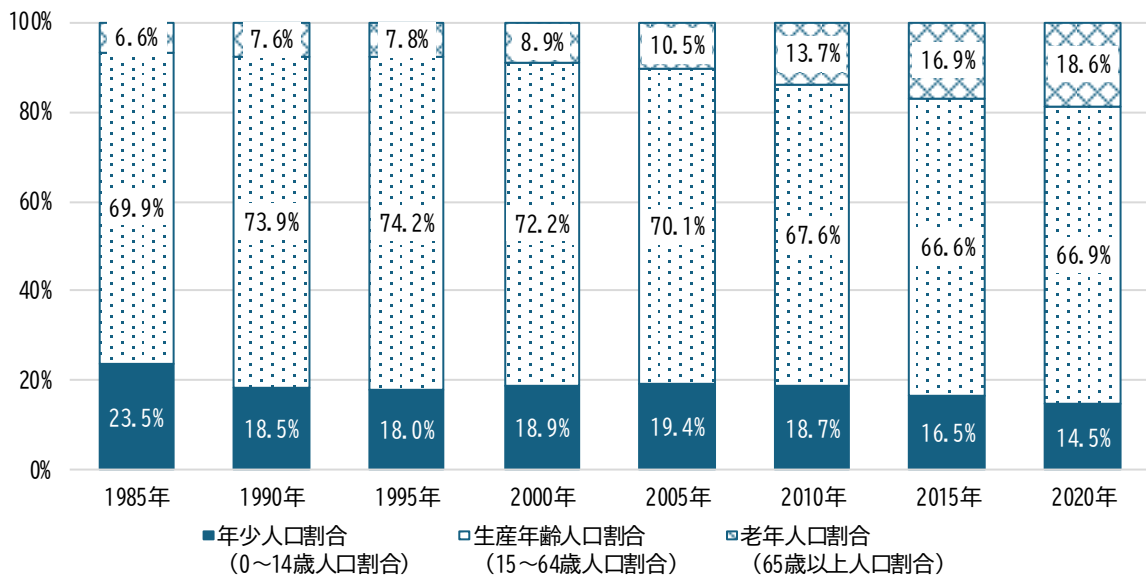
図表1 本市の人口の推移



出典) 国勢調査(令和2(2020)年)

年齢3区分の構成比の推移をみると、年少人口の減少、老年人口割合の増加が続いており、少子高齢化が進行しています。令和2(2020)年の年少人口割合は14.5%、生産年齢人口割合は66.9%、老年人口割合は18.6%となっています。

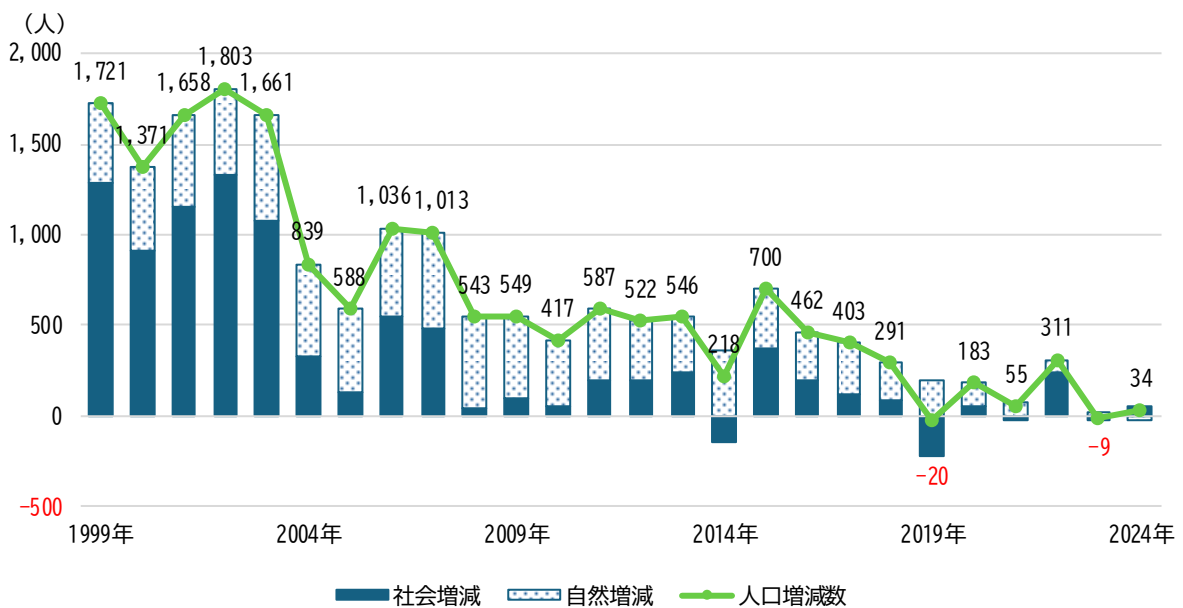
図表2 年齢3区分別人口構成の推移



出典) 国勢調査 (令和2(2020)年)

平成11(1999)年から令和6(2024)年までの人口増減数(自然増減数と社会増減数の合計)の推移をみると、人口増の状態が続いていましたが、平成14(2002)年の1,803人をピークに緩やかな減少傾向にあり、令和6(2024)年は34人の人口増となっています。

図表3 自然増減と社会増減の推移

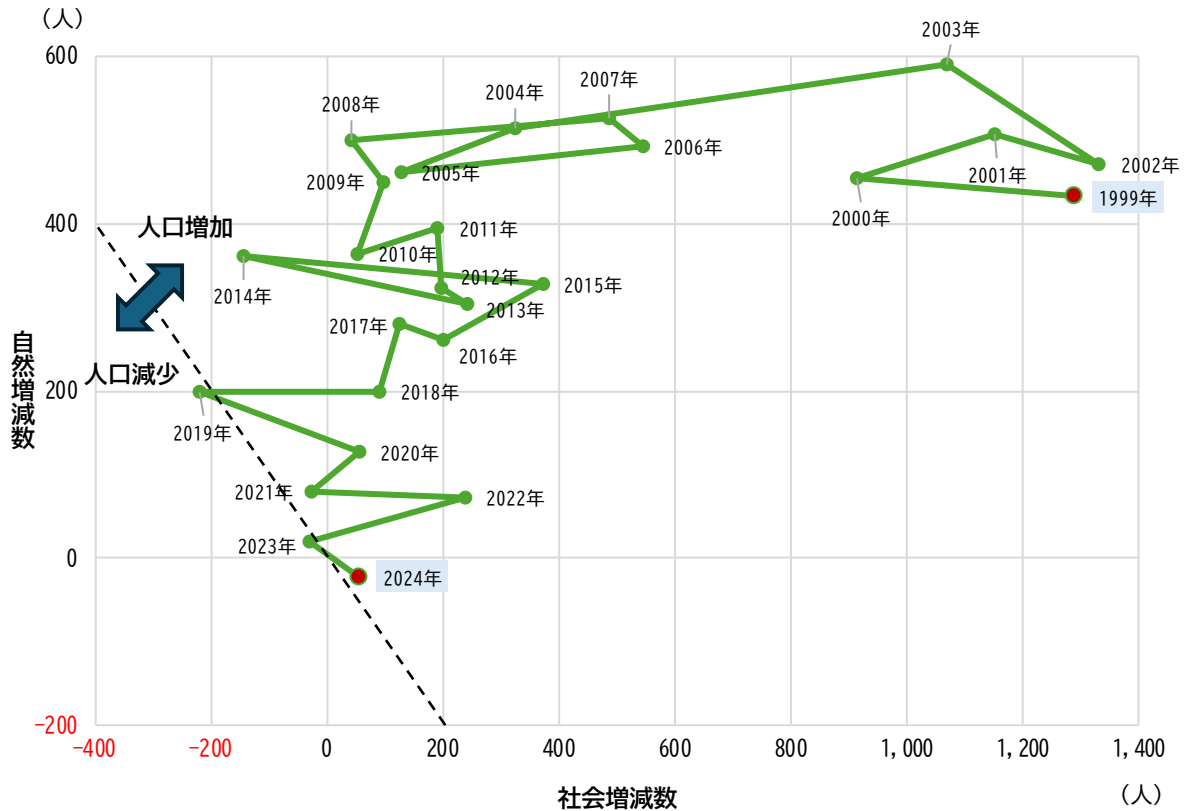


出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

平成 11(1999)年から令和 6 (2024)年までの自然増減数を縦軸に、社会増減数を横軸にしてプロットすると、以下の図になります。

本市では自然増・社会増により、人口増加の状態が続いていましたが、近年は自然増・社会増が減少傾向にあり、人口減少のラインにかかっている状態です。

図表 4 自然増減と社会増減の関係



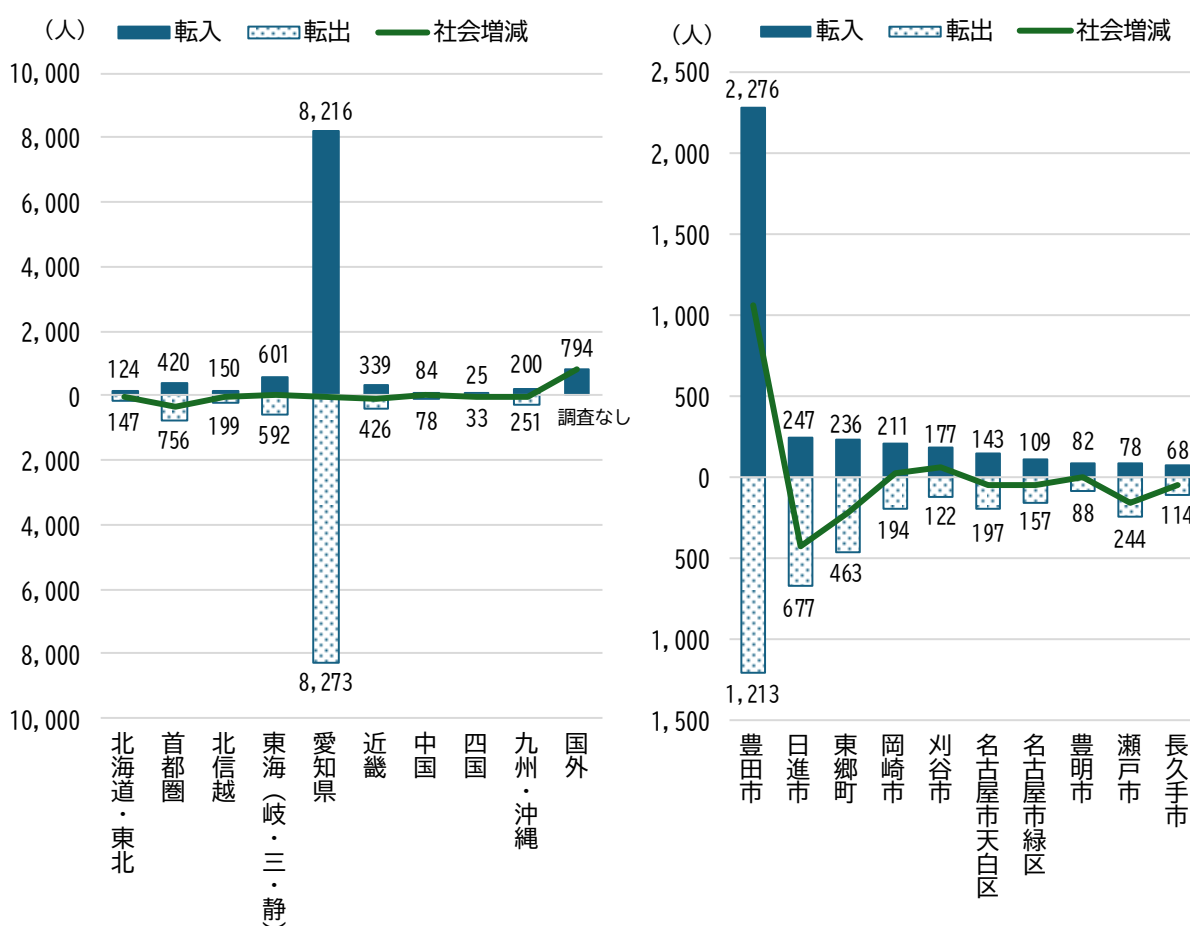
出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

注) 斜めの点線より右上側の領域は、自然増減と社会増減を合わせた増減がプラスとなっている領域で、人口増加となっていることを示し、点線より左下側の領域は、自然増減と社会増減を合わせた増減がマイナスとなっている領域で、人口減少となっていることを示しています。

令和2(2020)年における過去5年間の本市への転入者の転入元をみると、愛知県内が最も多く、次いで国内では愛知県以外の東海地域、首都圏が多くなっています。本市からの転出者の転出先も同様に愛知県内が最も多く、次いで首都圏、東海地域が多くなっています。社会増減をみると、国内では東海地域が9人、中国地方が6人の転入超過となっている一方、首都圏が336人、近畿地域が87人の転出超過となっています。

近隣市町との過去5年間の人口移動状況をみると、転入・転出ともに豊田市が最も多く、次いで日進市、東郷町が多くなっています。社会増減の転入超過では、豊田市が1,063人、刈谷市が55人、岡崎市が17人の増加となっている一方、転出超過では、日進市が430人、東郷町が227人、瀬戸市が166人の減少となっています。

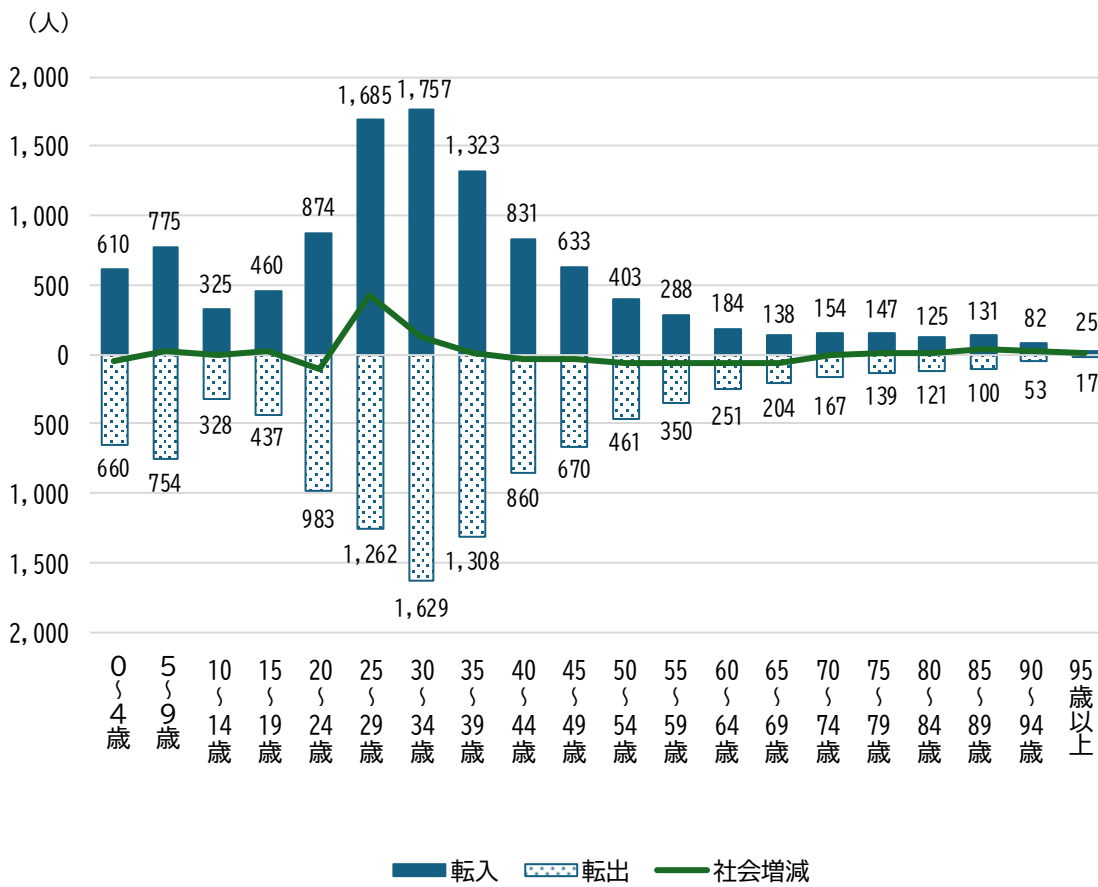
図表5 本市の人口移動状況（平成27(2015)年～令和2(2020)年）



出典) 国勢調査(令和2(2020)年)

令和2(2020)年における過去5年間の人口移動状況を年齢別にみると、25～39歳で転入超過となっている一方、20～24歳、40～74歳で転出超過となっています。

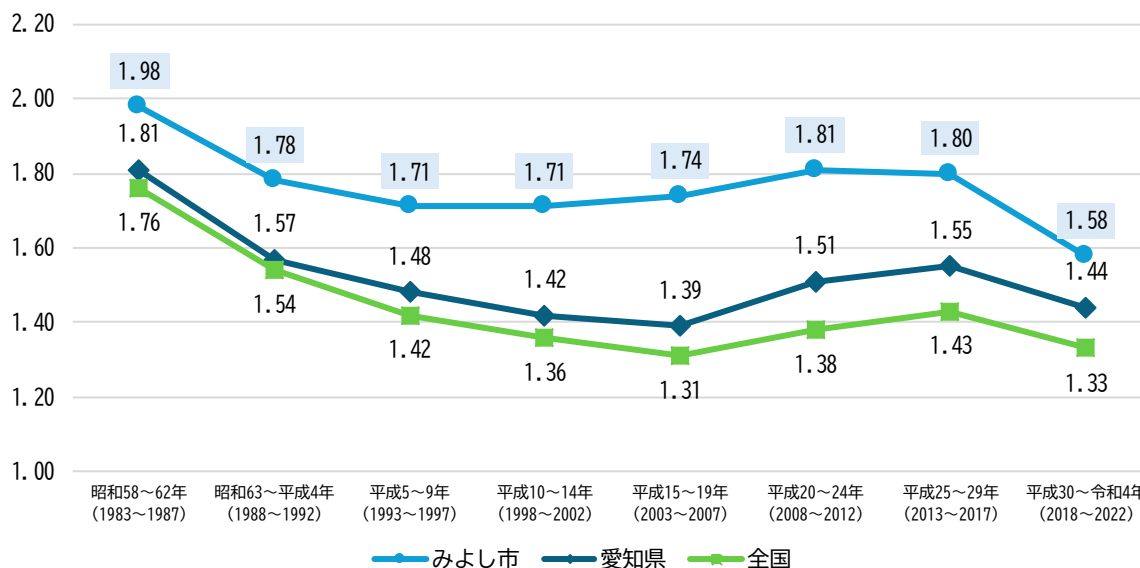
図表6 本市の年齢別人口移動状況（平成27(2015)年～令和2(2020)年）



出典) 国勢調査(令和2(2020)年)

本市の合計特殊出生率\*は、昭和 63(1988)年から平成 29(2017)年までの間、1.7 から 1.8 と、全国及び愛知県と比較して、高い水準を維持してきましたが、直近の平成 30(2018)年から令和 4 (2022)年は 1.58 まで低下しました。

図表 7 合計特殊出生率の推移

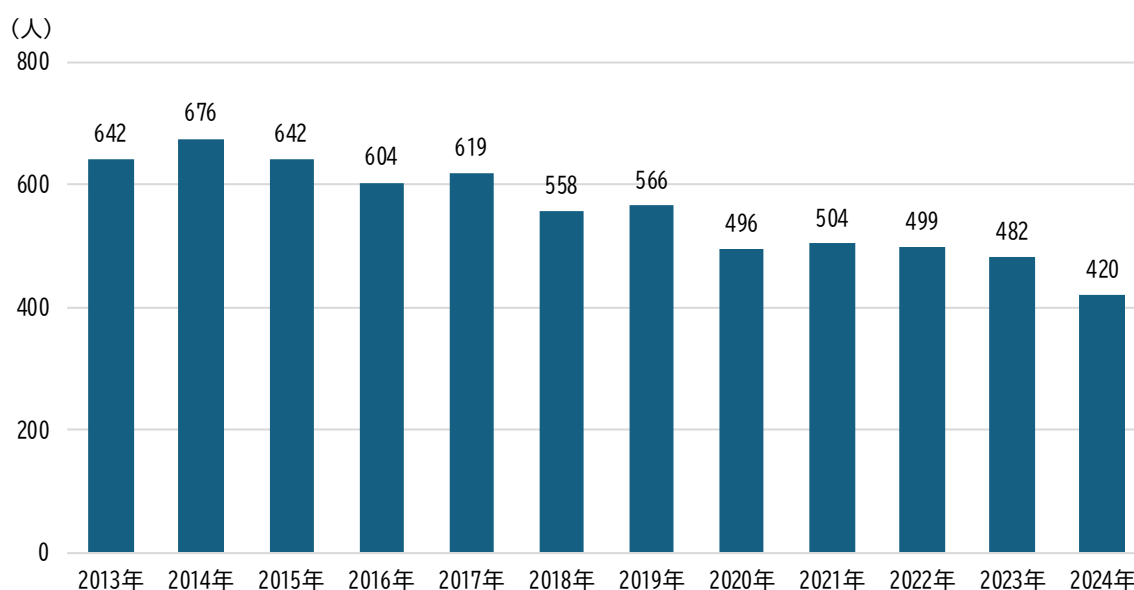


出典) 厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

\*合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に産むと仮定される子どもの数に相当する人口統計の指標。人口の維持に必要な人口置換水準は2.07ですが、現状はこれを大きく下回っています。

本市の年間出生数の推移をみると、緩やかな減少傾向が続いており、直近の令和 6 (2024)年は 420 人で、10 年前の平成 27(2015)年と比較して、約 3分の 2 に減少しています。

図表 8 出生数の推移



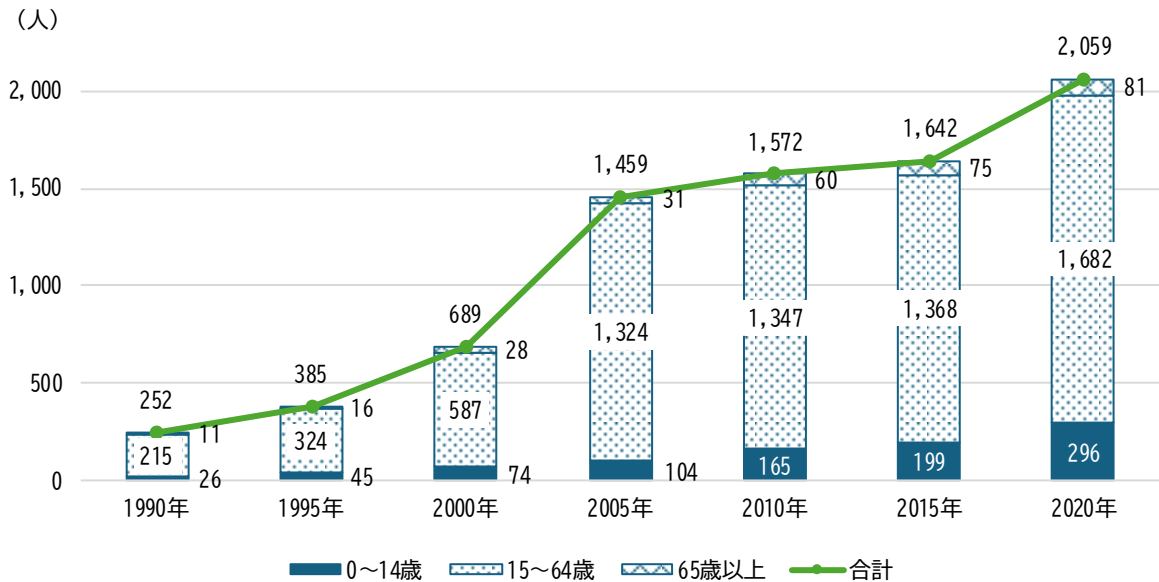
出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

(出生数は当該年度の住民票記載出生者数総計)

本市の外国人人口の推移をみると、平成2(1990)年以降、増加し続けており、令和2(2020)年では2,059人となっています。

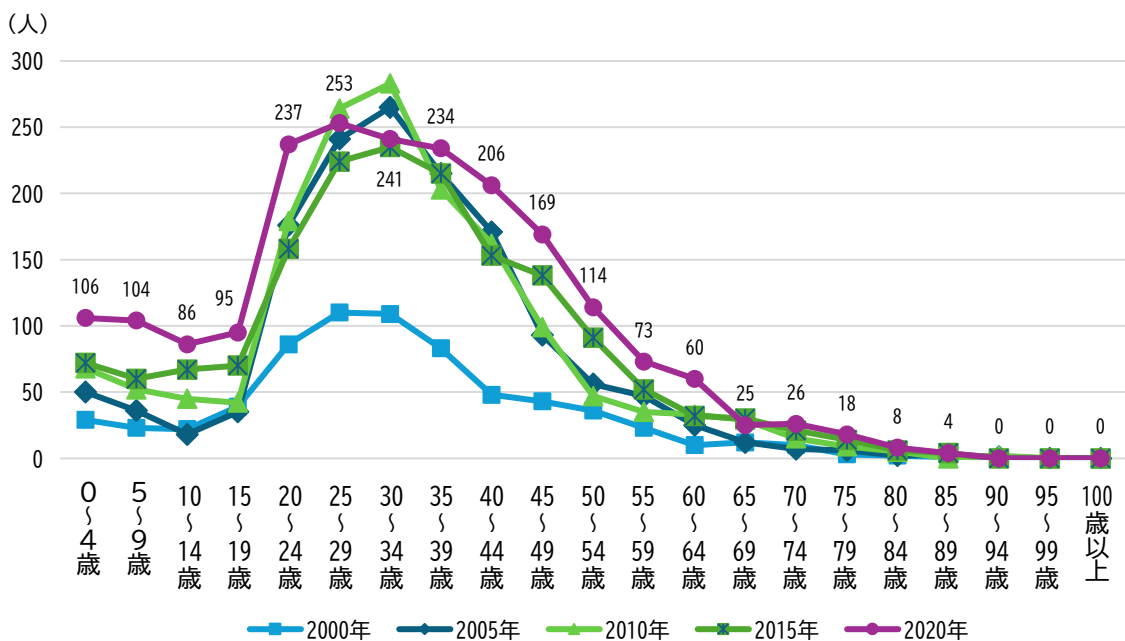
年齢5歳階級別でみると、20歳代～40歳代の外国人人口が大きく増加しています。いずれの年においても、25～29歳又は30～34歳の人数が他の年齢階級に比べて最も多くなっています。

図表9 本市の外国人人口の推移



出典) 国勢調査(外国人人口は国籍不詳を含み、年齢不詳を含まない)

図表10 本市の年齢階級別外国人人口の推移



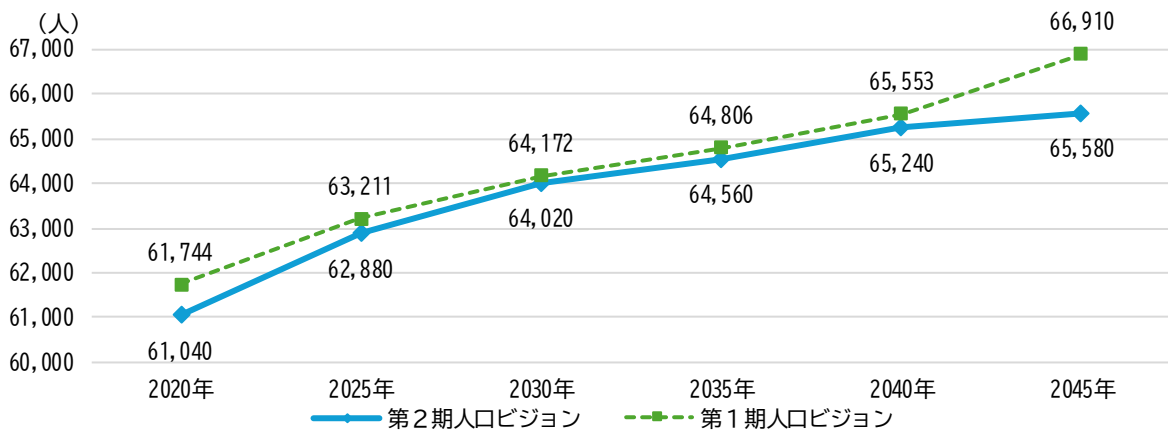
出典) 国勢調査(外国人人口は国籍不詳を含み、年齢不詳を含まない)

注) グラフ上の数値は令和2(2020)年の値

## (2) 将来人口の推計

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「第2期人口ビジョン」という。）では、第1期みよし市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「第1期人口ビジョン」という。）に引き続き、【合計特殊出生率及び移動率の維持＝自然増を促進し社会減を抑制】を目指すべき方向とし、第2次みよし市総合計画の人口の見通しに沿うものとなるよう、令和20（2038）年に人口65,000人となることを目指しました。

図表11 本市の将来目標人口（人口ビジョン）

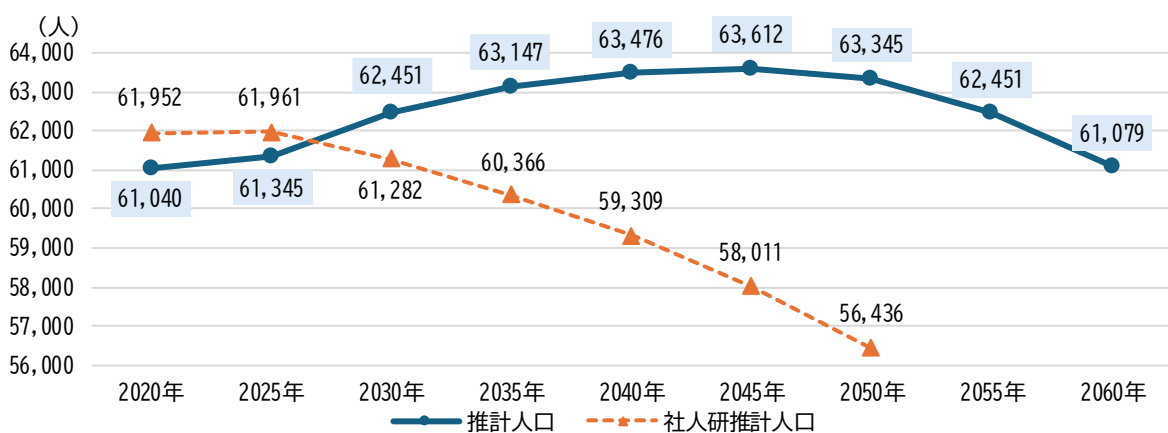


出典) 第1期人口ビジョン、第2期人口ビジョン

これに対し、国立社会保障・人口問題研究所が令和5（2023）年に推計した本市の将来人口は、令和7（2025）年以降は減少して令和32（2050）年には56,436人となると見込まれています。これは第2期人口ビジョンの推計人口を大きく下回っています。

実績値に基づきコーホート要因法を用いて本市独自で推計した人口では、令和27（2045）年にピーク人口63,612人となり、以降は減少して令和32（2050）年に63,345人、令和42（2060）年に61,079人となると見込んでいます。

図表12 本市の推計人口



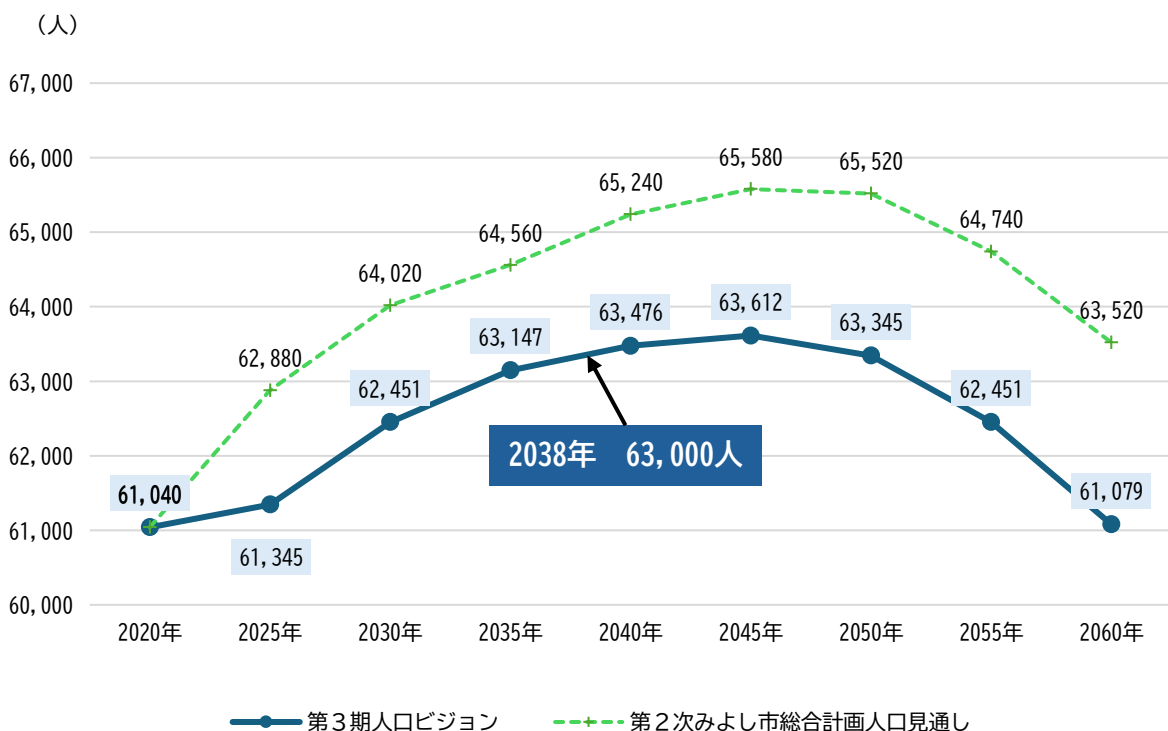
出典) 推計人口：実績値を基にコーホート要因法を用いて推計した人口、令和2（2020）年・令和7（2025）年の値は住民基本台帳人口の実績値、令和7（2025）年4月1日現在の住民基本台帳人口を基準人口とし、合計特殊出生率は1.80、移動率は直近15年間の各4月1日の住民記録人口の移動率平均値にて推計  
社人研推計人口：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）

### 3. 人口の将来展望

第2期人口ビジョンにおいては、合計特殊出生率・移動率を変数としたシミュレーションの結果、【合計特殊出生率及び移動率の維持＝自然増を促進し社会減を抑制】を目指すべき方向としました。第3期みよし市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「第3期人口ビジョン」という。）においても、引き続きこれを目指すべき方向とします。

また、第3期人口ビジョンの策定年度が、第2次みよし市総合計画後期基本計画を策定した令和6(2024)年3月と近いこと、直近の年度において、転入・転出人口比率が100%以上を概ね維持できていること、図表14に掲げる本市が実施する地方創生の取組の継続・推進により、人口の増加・維持を図ることを踏まえ、第3期人口ビジョンは、現時点の人口を基準として、第2次みよし市総合計画における人口見通しに沿い、【令和20(2038)年に63,000人の人口を目指す】ものとします。

図表13 第3期人口ビジョン



出典) 第2次総合計画

注1) 第2次総合計画人口見通しの令和2(2020)年の値を同年4月1日時点の住民記録の実績値に変更

注2) 推計人口の令和2(2020)年、令和7(2025)年の値は各年4月1日時点の住民記録の実績値

図表 14 第3期人口ビジョンにおける3つの基本的視点

<p><b>I 若い世代が希望を持てる就労・結婚・子育て・教育等の実現</b></p>	<p>○本市の年間出生数は緩やかな減少傾向にありますが、合計特殊出生率は国・県より高い水準を維持しています。</p> <p>○これまで自然増・社会増を基本的に維持してきましたが、いずれも鈍化傾向にあります。近年はわずかながら転出超過となり、総人口が微減となる年もみられるなど、総人口の増加は鈍化しています。20歳代後半から30歳代後半は転入超過となっていますが、近年鈍化の傾向がみられます。</p> <p>⇒本市に居住する若い世代が安心して働き、出産、子育てができ、生き方・働き方の希望をかなえる環境の整備に取り組むことを基本とします。</p>
<p><b>II まちの魅力向上とにぎわい創出を通じた転入・定住の促進</b></p>	<p>○本市の生産年齢人口割合は平成7(1995)年以降、減少傾向が続いています。地域社会・経済への影響、地域の活性化の観点からも、この傾向に歯止めをかける施策が必要です。</p> <p>○平成27(2015)年から令和2(2020)年は25歳から39歳が転入超過の一方、40歳代から74歳までが転出超過となっています。転出先は、近年は近隣市町に加え、首都圏や近畿圏への転出超過もみられます。</p> <p>⇒人々の活発な活動・交流を通じて、まちの魅力を創出し、住みたい、住み続けたいと思える豊かなまちづくりに取り組むことを基本とします。</p>
<p><b>III 生き生きと住み続けられる生活環境の充実</b></p>	<p>○本市に居住する一人一人に居場所があり、誰もがこのまちに住んでいてよかった、これからも住み続けたいと思えるまちづくりを進めていくことが重要です。</p> <p>○住み慣れた地域で、いつまでも安心して快適に暮らし続けられるよう、これらを支える取組を進めることは、転出の抑制と転入の増加を通じた社会増に寄与すると考えられます。</p> <p>⇒誰もが生き生きと住み続けられる生活環境の充実に取り組むことを基本とします。</p>



**第3期人口ビジョン**  
令和20(2038)年に63,000人の人口を目指す

